

2022 年度日本語教育学会秋季大会

大会若手優秀発表賞（口頭発表） 受賞コメント

新谷知佳（大阪大学大学院生）

この度は栄えある賞をいただき誠にありがとうございます。大変
光栄に存じます。

本発表は、「強まる」「強める」のような形容詞語幹を持つ自他対
応動詞に着目し、コーパスにおける使用頻度をもとにそれらの使用
傾向について分析を行ったものです。自動詞と他動詞の使用には偏
りが見られることを示すこと、意味的に類似した「強くなる」「強く
する」のような「形容詞の連用形+なる/する」との比較を通して
その使用傾向をより詳細に明らかにすることを目的としました。使用
したコーパスは、『毎日新聞記事データ集』2016年版～2020年版
および『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』で、分析の対象
とする動詞は、「高い」「弱い」「強い」「深い」「薄い」「早い/速い」



の6つの形容詞を語幹を持つ自他対応動詞としました。分析の結果、形容詞語幹を持つ動詞では
他動詞が、「形容詞の連用形+なる/する」では自動詞が多く使用されるという傾向が見られました。
また、他動詞表現ではもっぱら形容詞語幹を持つ他動詞が用いられる傾向が見られるのに対し、
自動詞表現では「形容詞の連用形+なる/する」が多く用いられる場合には形容詞語幹を持つ動
詞の使用が少なくなることが明らかとなりました。

自他対応動詞の習得の難しさは、国内外の日本語教育現場に関わってきた際に、数ある文法項
目の中でも特に考えさせられる場面の多いものでした。学習者は、それぞれの学習の過程におい
て、自他対応動詞を覚えるだけではなく、いつ自動詞を用い、いつ他動詞を用いれば自然な表現
となるのかについても、身に着けていく必要があると思われます。その「自然さ」について考え
た際に、自他対応動詞であっても、どちらかを用いた方がより自然な動詞があることが気になる
ようになりました。そこで、コーパスにおける使用傾向をもとに、それぞれの自他対応動詞にお
ける自動詞と他動詞の使用比率に着目し、その分析、考察に取り組んできました。今回の研究は
その中でも形容詞語幹を持つ自他対応動詞に絞って、分析、考察を行ったものです。

今後は、それぞれの動詞の使用傾向を示すだけではなく、使用場面についても考察を行い、日
本語教育現場に応用可能な形で記述することを目指していきたいと考えています。その過程にお
いては、今回扱った「形容詞の連用形+なる/する」のような類似表現との関係を示すことも重
要であると考えます。日本語学習者が文法的な正しさと日本語らしさの両方を身につけられるよ
うにするための基盤づくりの一助を担いたいという思いで、さらなる研究に取り組む所存です。

最後になりましたが、ご指導くださった三宅知宏先生をはじめとする大阪大学の先生方ならび
に院生のみなさま、発表の場でご質問・ご意見をくださったみなさま、そして関係者のみなさま
に心より御礼申し上げます。

2022 年度日本語教育学会秋季大会

大会若手優秀発表賞（ポスター発表） 受賞コメント

富樫里真（目白大学大学院生）

この度は、大会若手優秀発表賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。

本発表は、男性日本語教師3名のキャリア形成の径路を可視化することを通し、その径路に影響を与える要因を探ったものです。調査時点で「日本語教師を続ける」という選択をしている中堅以上の経歴を持つ男性日本語教師3名に対して半構造化インタビューを実施し、TEM（複線径路・等至性モデル）の手法によって3名それぞれの個人 TEM 図を作成した上で、統合 TEM 図を作成しました。さらに、統合 TEM 図によって可視化された「日本語教師を続ける上で妨げとなった要因 SD」と「日本語教師を続けることを助勢した要因 SG」を表にまとめ、それぞれの要因を分類し分析しました。その結果、調査協力者らは、経済的・立場的影響を受ける中で、転職や組織内での様々な業務経験を繰り返してきたことがわかりました。また、そのキャリア形成には、職場環境、家庭・家族、学生の存在といった外的要因と、やりがい、自己成長、満足感といった内的要因が影響していたことがわかりました。そして、教師歴が長くなると、責任ある立場、キャリアアップ、学び直しへの意欲もキャリア形成に影響する傾向が示されました。これらのことから、日本語教師を続ける上で求められている支援として、職場や家庭（生活）との両立などの環境面での支援の整備と、日本語教師の専門性を高めるための学び直しへの後押しが求められていると考えています。また、インタビューを通して自身の径路を振り返ったことに対して好意的な発言が見られたことから、折に触れて自身を振り返り、キャリアについて考える機会を作ることの必要性も示唆されました。



現在、ご存知の通り日本語教師の国家資格化に向けての議論がなされており、今まで以上に日本語教師という職業への理解を深めることが求められていると言えます。日本語教師は女性が多いという現状がありますが、職業としての認識を高めるためには、男女が等しく働ける環境であることも重要であり、そのためにも男性日本語教師のキャリア形成の実態に目を向け、どのような支援が求められているのかを検討する必要があると考え、今回の発表に取り組みました。今回の発表はまだ第一歩であり、今後はより調査を進め、女性を含めた他の日本語教師のキャリア形成の実態と合わせて丁寧に分析・検討していく必要があります。こうした知見を積み重ねていくことで、日本語教師の養成、研修をより充実したものにするための議論に貢献できるものと思っています。今回このような賞をいただいたことは、大きな励みですし、研究をより深めていくよう背中を押していただいた思いです。本当にありがとうございました。

最後に、日頃から温かいご指導をいただいている池田広子先生をはじめとする目白大学の先生方、励まし合いながら共に学ぶ院生の皆様、調査にご協力くださった協力者の皆様にも心よりお礼申し上げます。また、今回の発表を支えてくださった大会委員の先生方、拙い発表に対し示唆に富んだご意見やご質問を投げかけてくださった皆様にも、深く感謝申し上げます。

[2022 年度日本語教育学会秋季大会（オンライン開催，2022. 11. 27）口頭発表⑬]

形容詞語幹を持つ自他対応動詞の自他の使用傾向に関する分析

新谷知佳

「強まる：強める」のように形容詞語幹を持つ自他対応動詞について、自動詞と他動詞の使用に偏りが見られることを示すこと、そして、意味的に類似している部分の多い「形容詞の連用形＋なる／する」との比較を通してより詳細にその使用傾向を明らかにすることを目的として、コーパスにおける使用頻度をもとに分析を行う。分析対象は、「高い、弱い、強い、深い、薄い、はやい」の6つの形容詞を語幹を持つ自他対応動詞とする。『毎日新聞記事データ集』2016年版～2020年版と『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』の学習者データにおける頻度、『毎日新聞記事データ集』における形容詞語幹を持つ自他対応動詞と「形容詞の連用形＋なる／する」それぞれの自他の比率、そして形容詞語幹を持つ自他対応動詞の「まる」「める」と「形容詞の連用形＋なる／する」の「なる」「する」の使用分布の考察を行い、教育現場への応用可能性を示す。

(大阪大学大学院生)

[2022 年度日本語教育学会秋季大会（オンライン開催，2022. 11. 27）ポスター発表⑱]

男性日本語教師のキャリア形成に影響を与える要因の探索

富樫里真

本研究では、多様な日本語教師の中でも、中堅男性日本語教師3名に対し、彼らがどのような径路を辿ってキャリアを形成してきたのか、また、キャリア形成の過程でどのような環境的・社会的要因に影響を受け、その時々でどのように対処してきたのかについてインタビューを行い、そのデータを TEM（複線径路・等至性モデル）の手法を用いて質的に分析した。女性が多いとされる日本語教師という職業のキャリア形成を男性の観点から捉えることで、職業として日本語教師を続けるためにはどのような要因が影響を与えているのかを探索した。その結果、経済的・立場的影響を強く受け、時には日本語教育に関わる様々な業務への異動を経験しながら、キャリアを積み重ねてきたことがわかった。さらに、キャリアを積み重ねる上で、職場の人間関係や待遇を含めた環境、家族の理解、学生の存在や日本語教師自体のやりがい大きな下支えとなっていることが明らかになった。

(目白大学大学院生)